

事業コード	H25-建-継-19		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	広域河川改修事業		部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	河川改修		班 名	河川・ダム・海岸班 (tel) 018-860-2514
路線名等	一級河川 芋川		担当課長名	河川砂防課長 齋藤 春美
箇所名	由利本荘市内		担当者名	副主幹(兼) 班長 川村 潤
総合計画との関連	政策コード	11	政策名	生活基盤の整備
	施策コード	02	施策名	災害に強い県土づくりと社会資本の長寿命化
	指標コード	01	施策目標(指標)名	土砂災害防止施設、河川、海岸の整備

1. 事業の概要

事業期間	H01 ~ H35 (35 年)		総事業費	490.0 億円	国庫補助率	1/2
事業規模	計画延長L=15,260m 計画高水流量Q=560~690m ³ /s (1/10)					
事業の立案に至る背景	芋川は、蛇行を激しく繰り返す原始河川の様相を呈しており、川幅が狭く、河積が小さいため毎年のように沿川各地で浸水被害が発生していた。そのため、河川改修により河積の確保や湾曲河道の是正をはじめとした抜本的改修を平成元年から実施することとなった。					
事業目的	地域住民の生命と財産を守るため、河積確保や湾曲河道是正等の河川改修を実施して浸水被害の解消を図り、安全で安心できる地域づくりを推進する。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		49,000,000	49,000,000	0	
	経費 内訳	工事費	32,750,000	32,750,000	0	
		用補費	15,900,000	15,900,000	0	
		その他	350,000	350,000	0	
	財源 内訳	国庫補助	24,500,000	24,500,000	0	
		県債	22,050,000	22,050,000	0	
		その他	0	0	0	
一般財源		2,450,000	2,450,000	0		
事業内容		築堤工 護岸工 樋管工 橋梁工	築堤工 護岸工 樋管工 橋梁工			
事業の進捗状況	全体計画 490億円 平成24年度末時点投資額 402.8億円 進捗率 82.2%					
事業推進上の課題	県全体の予算制約や用地取得の難航により期間を要している。					
関連する計画等	「ふるさと秋田元気創造プラン」において、5つの戦略を支える横断的取り組み(4)社会資本整備の推進の中に、「水害・土砂災害への対応力強化」が位置付けられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	平成14年までに災害復旧助成事業及び河川災害復旧等関連緊急事業により、下流9.9km区間が完成している。そのため、依然として浸水被害が頻繁に発生している上流残区間の早期完成が強く望まれている。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	河川整備率				
	指標式	河川整備率=改修延長/要改修延長				
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無		○ 有 ● 無	
	目標値 a	45.2 %	データ等の出典		県 河川砂防課調べ	
	実績値 b	45.5 %				
達成率 b/a	100.7 %	把握の時期	平成25年 3 月			

前回評価結果等	● 選定または継続 ○ 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止	
	①指摘事項	
	特になし	
	②指摘事項への対応	
		特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	平成14年度までに、子吉川合流点から北福田までの9.9km区間については、平成10年豪雨を契機とした災害復旧事業により完成しているが、その上流区間においてはほぼ毎年のように浸水被害が発生している。計画上の浸水想定人家戸数が589戸と多く、国道やJR、小学校や病院など様々な施設の浸水も想定されるため、河川改修の必要性は高い。	30点
緊 急 性	現況流下能力が比較的低く、当該区域が重要水防区域に位置付けられていることから、事業実施の緊急性は高い。	8点
有 効 性	改修による河積の拡大により、災害防止効果の発現が期待される。また、現況河川環境を極力保全するとともに、堤防の天端舗装や斜路及び階段工の設置などにより、親水性の向上に努めている。	15点
効 率 性	事業の費用対効果は1.82であり、効率性は高い。また、既設護岸を極力活かした河川法線による事業実施や、建設廃材及び発生残土の有効利用などにより、コスト縮減を図っている。	13点
熟 度	現在も洪水被害が発生していることから、改修に対する地元の要望及び意識が強い。また、全川に渡って環境調査を実施しており、その結果を踏まえて現況河道(低水路、河畔林等)の保全及び山付け部を活かした施工を行っている。	20点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III) 地元からの要望が高く、「必要性」「有効性」等から、本事業は高く評価できる。	86点
総 合 評 価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止 事業実施は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 河川改修事業

事業コード (H25-建-継-19)
箇所名 (由利本荘市内)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	浸水戸数	50戸以上	10	10	
		49～10戸	7		
		10戸未満	3		
	浸水面積	60ha以上	10	10	
		59～10ha	7		
		10ha未満	3		
	重要な公共施設	3施設以上	5	5	
		2～1施設	3		
		無し	0		
	関係者、関係機関との調整	整備計画策定済み	5	5	
協議中であるが特段問題ない		3			
策定に着手していないが予定がある		1			
予定無し		0			
計			30	30	
緊急性	改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	5	
		40～59%	7		
		60%以上	5		
	重要水防地域	評定基準区分A	5	3	
		評定基準区分B	3		
計			15	8	
有効性	安全度	災害防止等効果が発現する	7	7	
		災害防止効果は現状と変わらない	0		
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	
		親水性は現状と変わらない	0		
	地域開発の状況	都市計画区域の存する地域	3	3	
地域開発の計画がある		1			
計			15	15	
効率性	費用便益比 (B/C)	1.0以上	5	5	
		1.0未満	0		
	該当項目数	3項目以上	5	5	
		2項目	3		
		1項目	1		
無し		0			
当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加	5	3		
	10%以上30%未満の増加	3			
	30%以上の増加	0			
計			15	13	
熟度	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	
		意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
		意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1		
	市町村の参画	積極的に参画し要望書等の提出がある	5	5	
		参画している	3		
		参画していない	0		
	進捗率	計画より進捗している	10	5	
		概ね進捗 (90～100%未満)	5		
計画より遅れている (90%未満)		3			
環境保全への配慮	システムでの環境配慮事項が3事項以上	5	5	システム=秋田県公共事業環境配慮システム	
	システムでの環境配慮事項が1～2事項	3			
	システムでの環境配慮事項がない	0			
計			25	20	
合計			100	86	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		